

第2期産業振興計画物部川地域アクションプランの取り組みの総括

取組の成果と今後の方向性

◎総評
物部川地域では、物部川流域の豊かな自然を活かした26の地域アクションプランを推進した。
農業分野では、26年4月に移転オープンした直販所「なの市」、飲食店「なのカフェ」が、地元の農産物とそれらを活かしたメニューを提供しており、順調に売上を伸ばしている。また、多くの雇用の創出を図ることができた。
林業分野では、森の工場の整備面積が目標を達成するなど、素材の生産量は順調に伸びている。
商工業分野では、新たな動きとして、27年9月に香美市でチャレンジショップが開設され、開業希望者(チャレンジャー)のサポート体制が整った(1事業者が営業中)。
その他、食品加工分野では、シャモやトレフルッタなど、地域の素材を使った加工品が新たに誕生し、順調に売上を伸ばしている。

※地域アクションプランによる雇用の創出 第2期 (H24~H27) 98人
うち産業振興推進総合支援事業費補助金関連 80人

◎各分野の取組の成果と今後の方向性
・農業分野
主幹品目であるニラは、販売額40億円を目標とする産地ビジョンを策定し、指導農業士の確保や講習会の開催に取り組むなど、新規就農者の育成に向けたサポート体制が強化された。引き続き産地ビジョンを推進し、生産額の向上を図る。
同じく主幹品目であるシトウは、実証試験や部会での推進により、土着天敵の導入農家が増加した。日本一の産地維持に向けて、環境制御技術等の導入及び担い手の確保育成を推進する。

・林業分野
「森の工場」の整備済面積が拡大し、素材の生産量が増加した。
今後とも、「森の工場」による森林の集約化を進め、作業道の開設など基盤整備の推進による素材の増産を図る。

・水産業分野
シイラの販路開拓が進み、取扱量及び取扱高ともに年々増加している。今後は、新たな魚種の取扱いによる生産額の拡大を目指す。

・商工業分野
海洋堂ファクトリーの誘致を契機とする南国市の中心市街地活性化に向けて、推進の母体となる「中心市街地活性化推進協議会」が設立され、28年3月に、「ごめんまち将来像プラン」を策定した。今後は、「将来像プラン」に掲げた個々の取り組みを実施し、誘致の早期実現に向け、地域住民や事業者の機運を高めていく。

・観光分野
物部川流域3市及び高知市で組織する高知中央広域観光協議会を設立(H25)し、圏域一体となった情報発信や観光客の誘致活動を展開した。
今後は、三宝山を観光拠点とするエリア整備の基本計画を策定し、近隣の観光資源とも連携した誘客活動を行い、入込客数の増を目指す。

主要な指標及び目標

項目	出発点 (2期計画策定時)	目標 (H27)	実績 (H27)
園芸主幹品目販売額(ニラ、シトウ、エメラルドメロン) <注1>	H23: 43.2億円	H27: 45.6億円	H27: 42.2億円
ユズ販売額	H23: 4.3億円	H27: 5.0億円	H27: 5.2億円
素材生産量	H22: 26,053㎡	H27: 47,500㎡	H27: 40,167㎡
シイラ加工事業の販売額	H22: 257.1万円	H27: 700万円	H27: 2,129万円
観光客入込客数<注2>	H22: 78.1万人(参考H21: 72.1万人)	H27: 80万人	H27: 72万人

注1 ニラ、エメラルドメロンはJ A土佐香美、シトウは南国市の3J Aの取扱分
注2 地域内の主要観光施設訪問者数と体験メニュー受け入れ人数の合計

主な支援策の活用状況(H24~H27)

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金 7事業 158,691千円
- ・観光拠点等整備事業費補助金等 13事業 17,467千円
- ・専門家の派遣(産業振興アドバイザー事業) 2件、延べ4回

「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組【南国市】

ごめんケンカシャモ <企業組合ごめんシャモ研究会等>

- 取組の内容**
- ・孵卵施設の整備(H25)
 - ・「シャモ鍋セット」、「シャモスキヤキセット」の開発・販売
- 今後の方向性**
- ・高知農業高校との連携等による生産体制の強化
 - ・新商品の開発、商談会出展等による販路開拓

- 主な成果**
- ・南国市内シャモ提供店舗数 15店舗(H23) → 19店舗(H27)
 - ・売上額 8,210千円(H23) → 39,258千円(H27)
 - ・「H25 土佐の食1グランプリ」で「シャモスキヤキ」が優勝



加工品販売による夜須地域の活性化【香南市】

夜須のトレフルッタ <協同組合やすらぎ市>

- 取組の内容**
- ・加工施設の整備(H25)
 - ・ゴロゴロメロンパンなど地域の特産品を使った加工品の開発及び販売
- 今後の方向性**
- ・摘果メロンを使ったおばちゃん漬けなどの新商品の開発

- 主な成果**
- ・加工品販売額 70,000千円(H22) → 95,590千円(H27)
 - ・雇用の創出 5人(うち長期5人)



直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大【南国市】

「なの市」「なのカフェ」 <JA長岡・(株)なの工房>

- 取組の内容**
- ・直販所「あけぼの市」を移転した「なの市」と新設の飲食店「なのカフェ」の開業(H26.4月)
 - ・近隣観光施設と連携した集客イベント「あけぼの街道ひまわりフェスタ」の開催
- 今後の方向性**
- ・利益率が高く客層にあった新商品、新メニューの開発
 - ・経費削減等による経営面の強化

- 主な成果**
- ・直販所等の売上額 33,000千円(H22) → 163,013千円(H27)
 - ・直販所等の雇用者数 3人(H22) → 34人(H27)



香美市ブランドの確立・特産品づくり【香美市】

ユズ製品・シカニク製品 <香美市観光協会・食品加工グループ>

- 取組の内容**
- ・ユズ皮を使った新商品の開発(3アイテム)、販売(H25)
 - ・鹿肉メニューや特産品の販売、PRに向け、べふ峡温泉スプリングフェスタ(4月29日シカニクの日)を開催
- 今後の方向性**
- ・「奥ものペブランド」の確立
 - ・食品加工グループの後継者の育成

- 主な成果**
- ・開発商品売上額 4,808千円(H22) → 14,217千円(H27)



民有林における素材の増産【物部川地域全域】

森の工場 <香美森林組合・物部森林組合等>

- 取組の内容**
- ・集約化団地の拡大
 - ・素材生産量の増大
- 今後の方向性**
- ・森の工場の拡大
 - ・素材の増産に向けての基盤整備

- 主な成果**
- ・森の工場整備済面積 9,400ha(H22) → 19,257ha(H27)
 - ・民有林からの素材生産量 26,053㎡(H22) → 40,167㎡(H27)



「森の駅」を中心とした体験型観光の推進【香美市】

物部体験・龍河洞体験 <香美市観光協会等>

- 取組の内容**
- ・龍河洞のインバウンド環境整備(案内用多言語アプリの開発)
 - ・龍河洞クリスマスキャンドルナイトの開催
 - ・飲食店連携による街バルイベント「香美バル」の開催
- 今後の方向性**
- ・新たな体験プログラムの造成や参加者の受け入れ体制の整備

- 主な成果**
- ・龍河洞クリスマスキャンドルナイト入洞者数 956人(H24) → 1,163人(H27)
 - ・体験プログラム 13プログラム(H23) → 22プログラム(H27)



体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信【香南市】

海から山から体験観光 <香南市観光協会等>

- 取組の内容**
- ・観光協会の一般社団法人化、旅行業第3種登録による旅行商品の造成・販売(長谷寺坐禅ツアー、第3回土佐塩の道トレイルランニングレースなどの開催)
 - ・サンライズ・サンセットシーカヤックモニターツアーの開催
- 今後の方向性**
- ・地域素材を使った旅行企画の開発と多様化

- 主な成果**
- ・主催旅行の開催 7コース295名(H24) → 17コース447名(H27)



物部川地域アクションプランで設定した
数値目標等に対する評価



重点的な対応が必要と思われるものについては、市町村や関係団体等との密接な連携のもと、課題の克服やさらなる成果の拡大に取り組む。

・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施

(目標の設定がないものや客観的に評価できない定性的な目標については、「—」としている)

区分	評価基準		件数
A+	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの、または状況を改善できたもの	・数値目標を達成したもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が100%以上 ・数値目標ではないが客観的に評価ができる目標を達成した(または達成する見込みがある)もの	26件
A		・数値目標をほぼ達成したもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が60%以上100%未満	6件
A-		・数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が60%未満	5件
B	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの、または状況を改善できなかったもの		11件
—	目標の設定がないものや、客観的に評価できない定性的な目標を設定したもの		1件
計			49件

※1つのアクションプランで複数の数値目標等を設定したものもあるため、上記の件数とアクションプランの数とは一致しない

(主なもの)

項目	見つかった課題・方向性	今後の展開
「ごめん」の賑わいづくり～ごめんの活性化～	商店街の歩行者通行量の増加を目標に掲げ、ごめん商店街の賑わいづくりに向け、各種イベントの開催などに取り組んできたが、地点Aにおける歩行者通行量は減少(H23:23人/H→H27:21.9人/H)。このため、集客の起爆剤となる新たな施設が必要	◎ファクトリー誘致を進めている海洋堂とも連携し、魅力ある商店街づくりを推進する。 ・ファクトリー建設に向けた基本構想を策定 ・「ごめんまち将来像プラン」の着実な実行
土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化	地域の活性化を図るためには、意欲ある商業の担い手を呼び込んで土佐山田えびす商店街を再生させ、その効果を周辺に広げていくことが必要	◎空き店舗対策として開設したチャレンジショップに、地域人材のみならず、移住して起業を目指すチャレンジャーを獲得する。 ・空き店舗の調査、所有者の意向確認を行い、チャレンジャーの受入体制を強化 ・移住相談会等への参加による県外への情報発信を強化
三宝山の観光拠点化と観光体験のエリアづくり	物部川地域の観光客入込数を80万人にする目標に掲げ、エーгентへのセールス等に取り組んできたが、主要観光施設の休館や天候不順の影響により観光客は減少(H22:78.1万人→H27:72万人)。今後、当地域への誘客を促進するためには、三宝山の絶景を活かした、地域の魅力にあふれ集客力のある新たな観光拠点が必要	◎市民・県民に愛され、多くの県外観光客が訪れる新たな観光拠点施設をつくる。 ・H27年度に磨き上げを行った基本構想を基に、専門家の意見を取り入れながら、基本計画を策定 ・周辺観光施設が連携し、観光客に地域でより長く滞在してもらえる仕組みづくりを検討